


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書  
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2021年 7月 28日	
所属部局・職	野生動物研究センター、修士課程学生
氏名	杉元拓斗

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
日本、芦生
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
基礎フィールドワーク実習(無雪期)
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
2021年 7月 19日 ~ 2021年 7月 21日 (3日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学フィールド科学教育センター、石原准教授
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の渡航では、芦生研究林内のシカの食害の調査をおこない、フィールドワークの基礎を学んだ。 1日目は、芦生研究林で植物の多様性を守るため、どのような取り組みをおこなっているかについて講義を受けた後、芦生研究林の低標高地域を散策した。非常に豊かな植生があるところだということを実感した。 2日目は、芦生研究林の高標高地域を散策した。先日シカに侵入されたシカ柵を見学し、補修作業を手伝った(図1)。以前は様々な植物が存在していたが、現在ではシカが食べない2種の植物が一面に広がっており、シカ害の影響を目の当たりにした。 3日目は、田舎の猟師である藤原さんから、自然を守るための取り組みについて講演をしていただいた。実際に現地でも問題に対処している人しか分からないこと(シカ害、猿害など)を、たくさん教えていただき、現実的な対処方法を考える上でとても参考になった。 この3日間の経験は、植物の保全、獣害への対処方法について、具体的な方針を考える上で重要となるだろう。今後は、ここで得た経験をもとに、獣害への現実的な対処方法を探っていきたい。

<b>図1. シカ柵の補修作業</b>
<b>6. その他</b> (特記事項など)